

# 留学報告書

モスクワ国立国際関係大学

国際関係学部 国際言語文化学科

日本文化コース

モスクワで約半年間を過ごし、様々なことを体験した。思うように言葉が通じず、また文化や常識も異なる環境には、困難も多かった。しかし、得た物も多かったと言える。以下では、学習面と生活面からそれらを報告する。

まずは留学先での学習等について述べる。交換留学先は、モスクワ国立国際関係大学（以下ムギモ）である。私がムギモへ留学した目的は、ロシア語の上達が一つと、もう一つは、日本語教育の現場を見ることであった。ロシア語の授業では、学期前に行われたレベル分けテストにより、少人数のグループが作られる。このグループで、毎日ロシア語の授業を受けていた。私のグループは4人で、私以外の三人はフランス人だった。少人数制だったこともあり、授業時は先生への質問がしやすく、疑問を残したまま授業が進むことは殆んど無かった。複数のロシア語の先生がおり、それぞれ内容や進め方は異なっていた。そのため、教科書通りにロシア語を学んだり、新聞記事やニュース映像を観て考察したり、自分自身のことをスピーチしたりと、様々な方法でロシア語を学ぶことができた。休み時間やSNSでクラスメイトと話す際は、お互いロシア語を使うようにし、言葉の上達に努めた。クラスメイトはみな勤勉であったため、その日学んだ言葉や文型はすぐに身に付けているように感じた。流暢にロシア語を話すクラスメイトを目の当たりにして以来、私もそれに取り残されないよう、予習や復習の量を増やすようになった。彼らと一緒に学べたおかげで、自分もロシア語の学習に貪欲になれたと感じている。まさに切磋琢磨できた学習環境だった。

ロシア語以外に、日本語の授業にも週3回参加した。ムギモには日本語科が設置されているため、レベルの高い日本語の教育現場を見ることができた。授業中には、先生からも学生からも、様々な日本語についての質問をされた。彼らの質問はいつも鋭く、すぐには答えられないものもあった。日本文化コースに所属し、将来は日本語教育に携わりたいと考えている自分が、まだ日本語のことを満足に理解できていないと感じた。ムギモの日本語の授業に出ていると、日本人である自分も知らなかったこと、忘れていたことなどを学ぶことができた。加えて、日本語についての無知さや未熟さを知り、これからの自分の日

本語学習の目標を明確にすることができた。ムギモでは、外国語を学ぶ学生としての立場と、日本語を教える教師としての立場どちらも体験できたことが、私にとってとても価値のあることだったのである。

次は、モスクワでの生活について述べる。ムギモのそばにある寮に滞在し、ベトナム人学生との2人部屋であった。休日には友人と中心街に出て、美術館等を巡った。入館チケットはどこも安価で、様々なロシア美術を観ることができた。年末年始にはロシア人の友人が、クルスクという街にある実家に招待してくれ、一週間ほどそこへ滞在した。観光のために訪れる人は殆んどいないと友人から聞いたときは、むしろそのような街へ行く貴重な機会が得られたことを嬉しく思った。友人の家族は、ロシア語をまだ上手く話せない私を迎え入れてくれ、様々なもてなしをしてくれた。家族たちは、街に目立った観光名所がないことで、私が時間を持て余すのでは、と言うことをいつも心配していたようであった。しかし私にとっては、ロシア人家庭の家で過ごすこと自体が興味深かった。家にいるだけで、自分との文化や価値観の違いを目の当たりにし、それらは私にたくさんの驚きと感動を与えた。また、目の前で交わされる彼らの会話を聞くことで、教科書にはないような口語表現を知ることができた。日常生活内の自然なロシア語を少しでも身に付けるため、家族の話すことを注意して聞くようにしていた。クルスクでは、ロシア人家庭の温かさに触れ、生活を体験し、言葉も学んだ。友人と、その家族に会えて本当に良かったと感じた。この友人以外にも、他のロシア人の友人たちは、私を常に気にかけてくれていた。彼らのおかげで、色々な物を観て、感じて、そして大きな問題もなく半年間過ごせたのだと思う。私は本当に、周りの友人に恵まれていた。

ロシアで過ごした半年間は、学習面でも生活面でも充実していたと言える。レベルの高い日本語教育の現場を見ることができ、また多くの友人と出会いロシアの文化を体験できた。この半年間は、全てが価値のある時間であった。そして帰国した今必要なのは、これらの経験を確実にこの先へ生かすことである。